22.2.28

阿部穂香・草刈千優

やどりぎ案内　業務実施報告書

＜　目次　＞

はじめに　…　p.３

「やどりぎ案内」が行うアーツプロジェクトとは？　…　p.３

1.開催地
2.目的
3.実施内容（２年間の最終目標）

今年の活動内容　…　p.５

1.参加者
2.日程
3.実施内容

まとめ　…　p.10

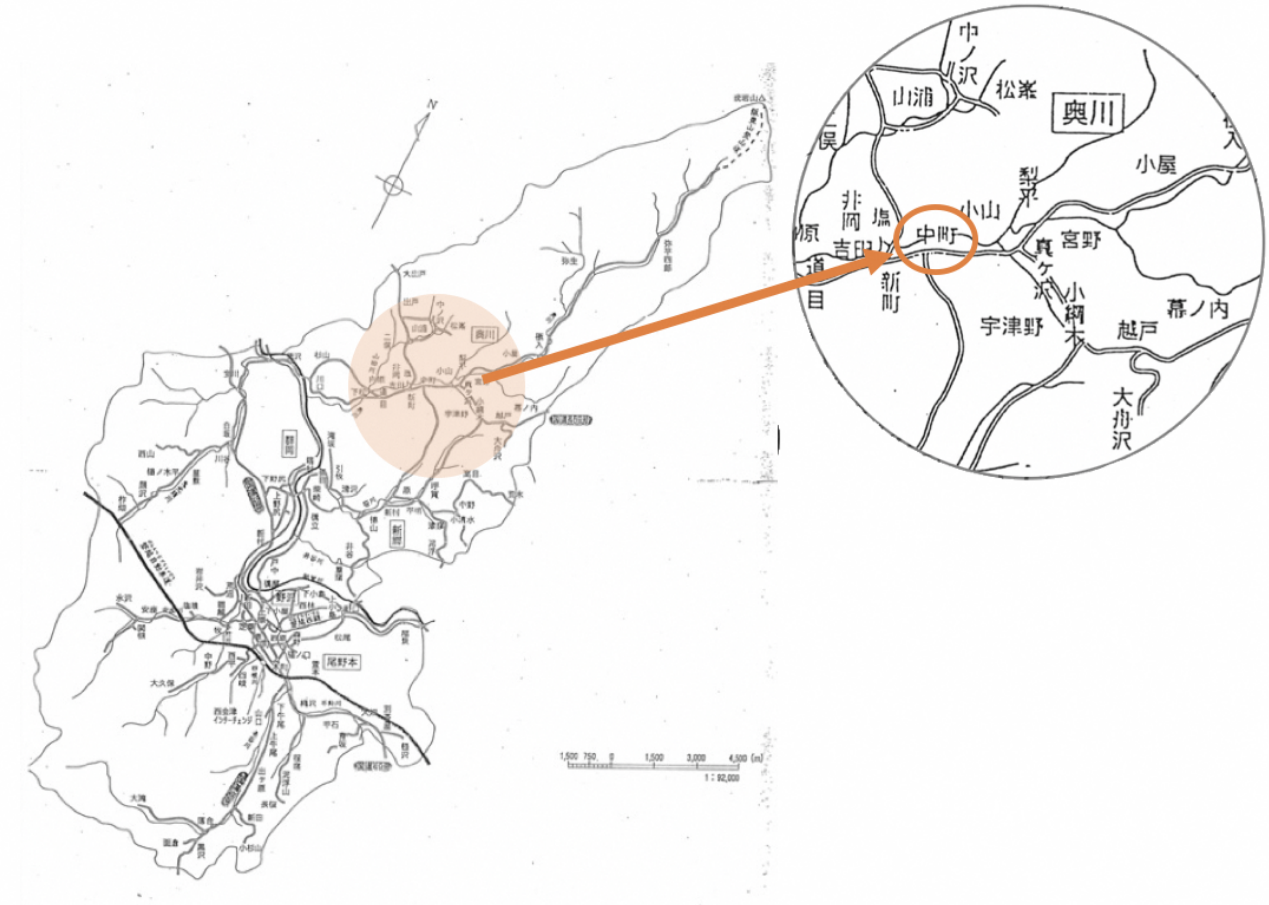
はじめに

私たち「やどりぎ案内」は、武蔵野美術大学を中心とした学生の有志団体である。福島県西会津町奥川地区と連携して今回のアーツプロジェクトを実施するために作られた。今年は新型コロナウィルスの影響で当初予定していた日程・内容で調査研究を行うことができず、時期をずらし、参加者を減らしたうえで、２泊3日の短期間滞在となった。

「やどりぎ案内」が行うアーツプロジェクトとは？

1.開催地

福島県・西会津町・奥川地区（※特に中町集落を中心とする）



（西会津町白地図より）

2.目的

やどりぎ案内のアーツプロジェクトの目的は、主に集落側の目的とアーティスト側の目的の2つにわけられる。

【奥川の目的 – 関係人口を増やす】

奥川地区を含む西会津町は福島県内でも人口減少率が高く、前年の国勢調査ではその減少率が10%を超えている。中でも奥川地区は高齢化率も人口減少率も高い地域で、町を歩いていていたら空き家が目立つほどだ。人の出入りの少ない奥川には、現在、まず奥川外の人に「奥川という場所を知ってもらう」、そして「奥川と他の地域につながりをつくることで、町としての機能を衰退させないようにする」という目標がある。とくに若者との関係作りには積極的だ。そのため、このプロジェクトは奥川において「都会の若者と奥川の間の関係人口を増やす」という目的がある。

【都会のアーティストの目的 – 新たな制作地の開拓】

都会を活動拠点としているアーティストのうち、特に学生をはじめとした20代の若手アーティストは制作地が限られている。とくに都会で生まれ育ったアーティストは地方との繋がりがなく、都会から出る機会がない。一方で彼らは都会以外の新たな環境と、そこから受ける刺激を求めている。期間限定でもそこでの滞在場所と制作場所が確保されていれば、都会を出て作品制作を行いたいというアーティストは多い。奥川は都会からのアクセスこそ悪いが、その分都会と環境が大きく異なる。そのためこのプロジェクトは都会のアーティストにおいて「新たな制作地の開拓」という目的がある。

3.実施目標（2022年次の本実施内容計画）

”奥川に住むひと”と”都会のアーティスト”が直接つながる、アーティスト・イン・レジデンス

【アーティスト・イン・レジデンスとは】

アーティストインレジデンスとは、アーティストが一定期間ある土地に滞在し、常時とは異なる文化環境で作品制作やリサーチ活動を行うこと。またはアーティストの滞在制作を支援する事業である。西会津町ではすでに芸術村でのアーティストインレジデンスの前例があるが、今回の企画は芸術に特化した施設を通さず、直接地域との関係を構築した上で、地域の方と作り上げていくプロジェクトであるという点に違いがある。

【対象者】

都会の美大学生を中心とした20代の若手アーティスト

【滞在場所/制作地】
滞在場所 …集落支援拠点施設　結
制作地 … 権現堂（屋外）

【スケジュール】
　計８日間の滞在型企画
1日目　－　移動日（都内発奥川着）
2日目　－　取材日①（※1）
3日目　－　取材日②/制作日①（※2）
4日目　－　取材日②
5日目　－　取材日③
6日目　－　展示設営/講評会（※3）
7日目　－　展示日
8日目　－　移動日（奥川発都内着）

※1　現地取材では奥川中町地区の民家に３軒～４軒ほどお邪魔し、日々の生活についてのお話を伺う。
※2　作品制作は主に権現堂を使用し、公開制作で進める。雨天時は地区内の体育館をお借りする。
※3　主に現地調査でお世話になった奥川の方々と参加アーティストで、作品の講評会を行う。

今年の活動内容

1.参加者

【やどりぎ案内 21年度現地調査参加メンバー】
　阿部穂香（武蔵野美術大学芸術文化学科4年）
　草刈千優（武蔵野美術大学芸術文化学科4年）
→計2名参加

【奥川地区でこのプロジェクトに協力してくれた方々】
　岩橋義平さん（奥川地区長）
　渡辺貴洋さん（地域おこし協力隊）

【取材に協力してくれた方】
　矢部哲夫さん
　岩橋百合子さん
　石井アツ子さん
　→計５名

2.日程

2021年11月2日～4日

3.実施内容

11月2日
・西会津役場奥川支所にて顔合わせ

11月3日
・集落取材
　3軒の民家へ挨拶を兼ねた訪問取材を行った。
　取材では、集落での暮らし、昔の集落の様子と現在との違い、戦争経験者からは記憶に残っている戦争の話などを伺った。取材内容を一部抜粋して以下に述べる。

【地蔵講】

「地蔵講」とはその地域の地蔵を信仰し、地蔵の世話をするグループのようなものを指すが、以下説明する中町集落で行われていた行事も「地蔵講」または「お地蔵様」と呼んでいた。

この行事は、地蔵講に所属する家々へ地蔵を招き、家でおもてなしをするというものである。地蔵自体の服も、この行事のために化粧直しをする。
地蔵は、もてなす家の者が背負って家までお招きする。そして、地蔵の前で食事会を開き、一通り終わればまた次の家へ背負って運ばれていく。このような行事が毎年3月と8月の24日に行われていた。30年ほど前までは行われていたが、現在行事は集落の高齢化のため途絶えている。地蔵講のグループ自体は現存しており、地蔵は現在もこの集落で大切にされている。

（地蔵講が実際に行われていた頃の写真）

（地蔵が鎮座するお堂を見学）

【さかや食堂（店主の矢部さんより）】

集落に唯一ある、元々酒蔵だった食堂。50年ほど前から食堂を営んでいる。食堂を営み始めた頃、集落には工場がたくさんあり、工場に勤める人々で食堂は繁盛した。現在稼働する工場は集落にない。

【奥川地区の動物の変化】

奥川には猪や猿が生息するが、これらの動物が出没し始めたのはここ10年の話で、それまでは野生動物を目撃することはあまりなかった。特に猪は、会津地方は雪が深く、猪は足が短いため冬を越せないと言われていた。しかしこの10年で猪や猿が出没し農作物を荒らすようになり、現在、狩猟などで対策を行うようになっている。

（取材訪問先にて、二筋手ぬぐいの付け方を教わる）

・権現堂の見学

権現堂は、集落にある広場である。権現堂には休憩できる東屋や夏には蓮のはなが咲く沼などがあり、昔はお昼ご飯を食べる場として使われたり、集落の運動会を開催したりと集落の憩いの場であった。現在集落の高齢化により、この場があまり活用されていない。

そこで、この場を活用してアートプロジェクトを開催し、新たな活用の方法を提示しようと計画している。

この日は権現堂全体の見学と、活用方法の検討を現場で行った。

11月4日

・隣の集落で美術館を開設予定の蔵を見学

郷土史家の古川利意さんの作品を収蔵する美術館を開館予定の蔵を見学した。古川利意さんは会津の伝統行事や風習、暮らしを記録した作品を多く残している。この日は美術館に改修途中の蔵の見学と、収蔵する作品を説明頂きながら拝見した。

（美術館となる蔵）

（作品の説明を受ける）

まとめ

冒頭にも述べたが、中町で開催する予定のアーツプロジェクトは本来2021年度の夏に実施予定であった。企画自体は2020年に中町集落と発案し、来年度の夏にはある程度収まっているだろう、との見通しの元に企画を進めていた。しかし、新型コロナウイルスの感染状況は夏になっても依然として感染者の減少は見込まれず、あえなく開催延期ということになった。

都会の若者が山間集落へ訪れることは、ただでさえハードルの高いことである。若者を惹きつけるレジャー施設も娯楽も少ない山間集落は、そもそも存在を知るきっかけがあまりにも少ない。加えて、コロナ禍の影響により都会の若者が地方へ行くこと自体のハードルがより高くなった。気軽に訪れることのできない今、集落と都会の若者をつなぐ糸はとても細く脆く、今にも切れそうな状態なのである。

感染状況が落ち着いた11月に、「事前調査」として中町集落を訪れ、住民の方と直接お話しをする機会をいただけた。もしかしたら今我々が訪れることは疎まれるかもしれない、と不安を抱きながらの訪問であったが、現地につくとその不安は消し去られた。取材に応じてくださった住民の方は皆温かく迎えてくださり、集落に若者が来ることを望んでくれているということを実感した。また、都会に普段住む若者にとって、中町集落は大変に魅力的である。自然豊かな景色とその豊かさがもたらす食物や水、そしてその環境の中で紡がれる暮らしの様。集落の住民の方にとっての日常のどれもが、我々の日常では得難い魅力なのだ。

そんな魅力的な集落は人口減少率も高齢化率も高く、このままではいずれ維持が出来なくなってしまう。衰退へたどる集落を目の当たりにしている我々が、集落にできることはなんだろうか。

関係人口の創出はその一つだろう。たまたま縁ができた我々から、少しずつ若者が来るきっかけを作り、若者と集落のネットワークを強固にしていくことで集落の維持に力添えできると考えている。

そのきっかけとして、アートという手段を取りたい。アートには価値を提示する力がある。アートを学び、創作活動をする我々にできることは、提示する力を大いに発揮し集落の価値を再提示していくことである。決して「新たな魅力」を創出することではなく、すでにある魅力の再提示と発信を、集落にとって第三者の目である都心の若者の手により行うことが関係人口の創出には有効なのではないだろうか。また、山間集落の魅力を知り提示することは、都会に住む若者アーティストにとって、普段では得られないものを得られる新たな活動の場になる。アートにより双方を繋ぐことは、お互いに得るもののある相互関係を生み出すことになるだろう。

来年度、新型コロナウイルスの状況はどうなっているのか検討がつかないが、その中でも関係を続けることを諦めず、その時の状況に合わせ我々にできることを検討し続けていきたい。

最後に、感染状況が悪化していても常に関係を絶やさず、いつも企画のためにご尽力くださった中町区長の岩橋さんと地域おこし協力隊の渡辺さんに心より御礼を申し上げる。

2022年2月28日　やどりぎ案内